

第9回やまねこ博覧会開催報告

開催期間：令和2年10月17日（土），18日（日）

開催場所：京都市動物園

絶滅の危機に瀕しているツシマヤマネコの現状や、その保全に関する取組をより深く知っていただくためのイベント「第9回やまねこ博覧会」を開催しました。

来園者数：17日(土)325人 雨 18日(日) 7,884人 晴

今年は、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、いくつかの感染防止策を取り、企画内容の見直しを行いました。

- ・やまねこふわふわ（エア遊具）の中止
- ・紙芝居の映像常時配信
- ・ツシマヤマネコマスコットキャラクター「サクラ」の出演中止；フォトパネルによる代替
- ・SNSを用いた開催内容の発信（開催中のInstagramストーリーズ[7回投稿]総リーチ数：23,801）



ヤマネコクロスワード

両日開催

答え合わせ正解者数：17日(土) 7人 18日(日) 71人

昨年好評であったこと、また来園者の分散を図れることから今年も実施しました。幅広い年代が、ツシマヤマネコに関する知識を楽しみながら得ることができました。答え合わせで正解の方には、当園で飼育しているツシマヤマネコのオリジナル缶マグネットをプレゼントしました。



参加協力団体のよるブース出展

両日開催



ブース出展には「舟志の森づくり推進委員会」「一般社団法人MIT」「NPO法人ツシマヤマネコを守る会」「NPO法人動物たちの病院」「関西大学第一高等学校中学校生物部」にご協力いただきました。

例年行っている「対馬市役所」によるエア遊具の出展は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止とし、代わりに「舟志の森づくり推進委員会」さんに、住友大阪セメントさん作製のヤマネコ付箋等ノベルティの提供や、普及啓発ブースの出展をしていただきました。各ブース出展では、保全活動の紹介や消しゴムスタンプによるエコバッグ作り、普及啓発用のグッズ販売などが行われました。初日は雨天でしたが、昼休みには職員が積極的にブースを訪れ、情報交換をする様子が見られました。二日目は晴天に恵まれ、どのブースも終日多くの来園者でにぎわっていました。

参加者数 41人 (事前応募者数 44人)

今年一年間、当園でのツシヤママネコの飼育に関する情報を来園者に知ってもらうために講演会を行いました。

また、今年是对馬市役所でツシヤママネコの保全活動に取り組む吉田裕司氏による、現地からのリモート中継を実施しました。



飼育に関する講演2題「ツシヤママネコの一年」「高齢ツシヤママネコの飼育展示」については、フロアから全体的な保護管理計画に関する質問、飼育個体のリハビリ（野生復帰）に関する質問などがありました。また、対馬現地のリモート講演については、今年の田んぼにおけるツシヤママネコ幼獣の様子やツシヤママネコの野生での生態に関する質問がありました。

参加者が積極的に質問をされる様子は、とても意欲的に感じられ、「やまねこ博覧会」を主とする継続的な普及啓発活動を行ってきた成果であると感じました。



写真展 「野生のツシヤママネコと対馬の風景」
「全国ツシヤママネコ飼育個体」
「サクラ」ちゃんと一緒

両日開催

対馬の写真展及び飼育個体の写真パネル展は、ツシヤママネコの普及啓発を行う日「とらやまの日；10月8日」から、開催しました。対馬の風景を紹介する写真展は図書館カフェの2階で開催しました。

ツシヤママネコの飼育個体の写真パネルについては、実物大に加工したものを園内数箇所に分散して設置し、来園者が実際に対馬を訪れてツシヤママネコを見つけたような工夫をして、展示を行いました。

ラリー形式ではなく、アンケート等も行わなかったため、実際どれほどの方が写真展や写真パネル探しを楽しまれたかは把握できませんでしたが、来園者からは設置場所についての問い合わせもあり、全個体を探された方もおられたようでした。

「サクラ」ちゃんと一緒（着ぐるみのグリーティング）については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から出演は中止しましたが、代替として等身大パネルによる展示を行いました。

